第２１回　花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール

受賞者の業績概要

平成２４年３月

財団法人日本花普及センター

第２１回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクール

表　　彰　　式

平成２４年3月１９日（月）１３：３０～
農林水産省共済組合「南青山会館」
東京都港区南青山５－７－１０
TEL　０３－３４０６－１３６５

表　彰　式　次　第

１　開会あいさつ

２　審査講評
　　審査委員長　日本大学生物資源科学部　教授　腰岡政二

３　賞状授与

農林水産大臣賞	１点
農林水産省生産局長	４点
財団法人日本花普及センター会長賞	３点

４　祝　辞

５　記念撮影

６　懇談会
　　表彰式と記念写真撮影の終了後、出席者による懇談会を開催

第２１回花の国づくり共励会（平成２３年度）花き技術・経営コンクール

審　査　講　評

第２１回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクールは、花の国づくり都道府県協議会などより推薦がありました経営体について、６名の審査委員による提出された書類に基づく第１次審査と、現地での第２次審査を通して厳正に行われ、本共励会の最高賞である農林水産大臣賞には、次の経営体が選ばれました。

佐賀県鹿島市の小柳誠五、一枝夫妻は、就農して２０年目となります。初めは、施設花き３０ａ、露地みかん２００ａ、ブドウ１５ａ、水稲５ａからスタートしましたが、現在では花き専作となり施設を97ａまで規模拡大しています。当初は、トルコギキョウ、ストック、スターチス、オリエンタルユリ等を栽培していました。しかし、オリエンタルユリでは、種苗費や暖房経費が高い反面、植え付け後の経費と労働力が少なくてすむという点に着目し、平成１１年よりオリエンタルユリの栽培に経営を一本化しました。

栽培に当たっては、暖地の特性を活かして秋から初夏までの出荷を行ない、栽植密度を抑えることで堅くてボリュームがあり、草姿のバランスがよく切り花品質のよいユリを作る努力をしています。栽培ハウスが干拓地、平坦部、山間部の３か所に分散していることから、特に、土作りと土壌消毒を考慮するとともに、栽培土壌に応じた品種選定や栽培管理を細やかに行なっています。

ユリの出荷は年間約２５万本であり、東京・大田市場が全体出荷量の６０％、九州の各地市場が４０％となっています。出荷に当たっては、段ボールのみならず、ラッピングにも氏名と絵柄を入れ、小売店にアピールするとともに最後まで責任を持って販売するようにしています。切り花の開花性や日持ち性などの試験でも高い評価結果を得ており、平成２２年度並びに平成２３年度佐賀県花き園芸共進会においては、最優秀賞を受賞しています。

就農当時から妻一枝氏、長男公彦氏の３人で経営に携わり、長男の結婚後は、長男の妻貴子氏とともに家族全員で作業を分担しています。家族経営協定を平成１０年に結ぶことで、家族の役割分担と責任を明確にして経営効率を高めています。経営面においては、市場や小売店におけるユリの流行等の動向を見極めながら、高単価の品種、病害虫に強い品種、選別・梱包など作業性のよい品種を選択するとともに、インターネット等から消費者ニーズにすばやく対応することで、市場ではトップクラスの単価を維持しています。

栽培管理では、農薬の低減や労力・コスト軽減に努力し、近年の高温対策としての遮光ネットの活用、重油使用量削減対策として三重カーテン、サイドカーテン、放熱フインの導入などにより経費の大幅削減を達成しています。

このように、ユリの専作経営において、新技術の導入や施設の有効利用により安定した生産体制を整備し成功を収めていること、地域の生産振興や後継者育成に活躍されていること、過去３年間の出荷数量、経営収支ともに安定していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞に値すると判定されました。

農林水産省生産局長賞に選ばれました次の４経営体は、農林水産大臣賞に選ばれた経営体に収益性、経営の安定性の上で僅かに及ばないものの、以下に述べる点で高く評価されました。

神奈川県平塚市の窪田敬一氏は、昭和４４年に就農してシクラメン栽培を始めました。昭和４９年から２年間オランダの種苗会社で働くことで、エラチオールベゴニアの栽培方法や繁殖技術を習得しました。帰国後、エラチオールベゴニア生産に取り組みましたが、その後、花き苗生産に栽培を切り替えました。平成２年には有限会社「五領ケ台ガーデン」を設立し、かん水、防除、環境制御等の労力節減を目的とした構造と設備をもつ大規模温室を利用して、シクラメン、インパチェンス、ナスタチューム、プリムラ、パンジー、クジャクアスター等の鉢物および苗物を生産しています。平成１３年には、山梨県忍野村に農場を作り夏場の生産を始め、高冷地を生かした生産体系を構築しています。その一方で、生産者育種にも取り組みミニシクラメンの新品種も作出しています。また、労働力軽減のための自動かん水システムや土詰め機等の整備、養生庫や接木ロボットの整備、環境保全のためのエネルギーやCO_2の削減、農薬、施肥量の削減など経営に工夫や配慮が見られます。

地域での信望は厚く、平塚市の認定農業者、神奈川県の農業経営士として活躍していること、都市近郊という地理的条件を活かし、オリジナル品種の育成による差別化で高い所得率を確保していることなどが評価されました。

愛知県西尾市の稲垣長太郎氏は、昭和４３年にカーネーション栽培を開始しました。カーネーションの種苗登録を愛知県で最初に行なうとともに、交配育種から現在までに２７品種の登録品種を育成しています。育種に当たっては、作りやすさ、日持ちの良さ、市場性等を兼ね備えた品種を目指し、昭和６０年以降２０年間ウイルスフリー苗の生産を行なってきました。育成品種の中には、「アルペンローズ」や「ライトクリームキャンドル」などの人気品種が数多くあります。出荷の際には、稲垣ブランドのオリジナル品種であることが分かるように工夫をしています。栽培管理に当たっては、収穫用台車、自動かん水装置、フラワーネットの導入などで品質向上と作業時間の削減に役立て、環境保全の取り組みとしては、循環扇、フェロモントラップの導入並びに青色蛍光灯による集蛾灯の設置をしています。平成２０年には家族経営協定を結び、家族の作業分担と責任を明確にして経営効率を高めています。また、稲垣氏は、地元花き連、県花き連並びに日本花き生産協会の役職を務めカーネーションの生産技術の普及、消費拡大などのＰＲのため全国的に活動しているだけではなく、研修生等を受け入れて地域の後継者育成にも関わっています。

このように、オリジナル品種の育成によるブランド化の創出のみならず地域農業の発展のためにリーダーシップを発揮していることが評価されました。

長崎県諫早市の金原由紀男氏は、昭和５８年にキク専作として就農しました。周年栽培を実践するために耐候性のある鉄骨ハウスを導入するとともに、年間３作の実現を目指して栽培に取組みました。平成１０年には、更なる大規模経営を行なうため有限会社「金原園芸」を設立し、シェード設備等を装備した鉄骨ハウスを増設して、経営規模を１００ａ

と拡大しました。栽培においては土作りを基本とし、地域の畜産農家の堆肥や土壌改良剤を用いて２年をかけて全施設の土壌改良を図っています。高度な育苗技術によって高品質の苗を生産し、定植時から均一な生育を確保することで、高収量の栽培を実践しています。労働軽減の工夫として、夏場の芽摘み作業が削減できる芽なし品種等の導入をしています。環境保全や省エネルギーの観点からは、ヒートポンプを導入した経費の削減、低温開花性品種の導入による燃料費の削減、これらによるCO_2の削減、さらには、防虫ネット展張やタイベックシート敷設による害虫防除回数の低減などを図っています。また、雇用面では、すべて地元雇用とし、地域内での雇用創出にも貢献しています。

このように、キク専作で安定した経営を実現し、企業的花き経営農家のモデルとして活躍をしていることが評価されました。

熊本県宇城市の坂崎改輝・久子夫妻は、平成元年に花き生産を開始しました。当初は、カーネーションとスターチス栽培に取り組んでいましたが、その後、シュッコンカスミソウを導入しました。平成８年の連棟ハウス建設により本格的なシュッコンカスミソウ栽培に取り組み、翌年には電照施設を導入して継続出荷体系の確立を図りました。現在、施設面積８５ａでシュッコンカスミソウのほかカーネーションとスターチスを栽培しています。シュッコンカスミソウの栽培に当たっては、水田転作に適した土質にあった品種の選定や、堆肥の投入による地力向上で、堅くしまった花の生産が可能となっています。定植期をずらし、時期に合わせたピンチ方法を組み合わせることで、概ね９月下旬から５月までの継続出荷を可能にしました。出荷では、産地としての相対取引に貢献し、所属するＪＡ熊本うき花倶楽部において、平成１５年より８年連続して共販高第１位の表彰を受けています。家族経営協定を結ぶことで、家族の作業分担と責任を明確にしています。また、労働改善を目指して、品種、定植日、ピンチ方法の組み合わせによる労力分散や、調整及び規格の振り分けの簡便化を目指した収穫方法が実践されています。

このように、シュッコンカスミソウ主体の経営で効率よく収益を上げていること、品種や栽培法の工夫により長期出荷が実現していることが評価されました。

財団法人日本花普及センター会長賞に選ばれました次の３経営体は、以下に述べる点で評価され本賞に値すると判断されました。

埼玉県川口市の吉澤明弘氏は、平成１５年から２年間アメリカで鉢物経営の研修を受けた後に就農し、シクラメンを中心とした鉢物栽培を開始しました。基幹品目であるシクラメンは、播種から製品までの一貫栽培とし、施肥管理等を自家の栽培環境に合わせてアレンジすることで、品質の高い商品の生産に結びつけ、市場からも高い評価を得ています。栽培環境面においては、ヒートポンプの導入、循環用ファンの設置並びにガラス温室軒高の嵩上げなどによる夏季の高温障害を回避することなどで労働環境の改善や高品質生産に繋げています。また、播種機や土入れ機による作業の省力化や軽減化、施設内の動線の整備による鉢物の移動等における労働負荷の軽減が図られています。さらには、蒸気消毒機の導入や農業廃材の専門業者による回収など、環境保全を考慮した取り組みをしています。

このような経営哲学を基に、安定した生産をあげていることが評価されました。

福岡県三井郡の牛島博文氏は、２０歳で就農した当時は養鶏を行なっていましたが、その後、作目の試行錯誤を経て、平成７年より現在のガーベラ専作経営に至っています。栽培に当たっては、排水対策による株枯れ防止、点滴潅水システムによる施肥管理、土壌消毒による病害抑制、トラップの設置による害虫発生状況の把握やＵＶカットフイルムによる害虫侵入抑制などによる管理を徹底しています。現在生産している品種は４０品種とバラエティーに富んでいますが、品種の選定に当たっては、オランダの種苗会社を招いて情報交換を行い、栽培試験の結果から判断しています。販売面では、需要者である大手小売店やホテル業者などとの情報交換からニーズを把握することでガーベラの品種構成や選定に活かし、安定供給に努め顧客との信頼関係を構築しています。

このように、地域のリーダーとして技術の向上、品種の選択、販売促進等の面で牽引役を担っていること、経営方針が合理的であることが評価されました。

岐阜県飛騨地域のＪＡひだ花卉出荷組合菊部会では、昭和４０年頃にキク栽培を始めました。その後の社会状況はキク生産にも大きく影響を及ぼしましたが、盆需要期に出荷できる黄色輪ギク「飛騨黄金」の系統を育成することで、生産者数、販売金額が増加に転じ、産地が再び活気を取戻しました。当菊部会では、小規模産地ならではの特色を生かし、盆需要の仏花をターゲットとし、集中的に出荷する戦略を立てています。それにより、確実に需要期に出荷できる栽培体系の構築とマニュアル化、ＪＡ広報、バスツアーを活用した生産者の掘り起こしなどを行うことで、５年間で出荷本数を４９万本から６４万本へと着実に増加させています。戦略の立案に当たっては、量販等の仕入れに対応した出荷時期の前進化、値ごろ感のある出荷規格、予約相対取引価格の見直しなどに積極的に取り組み、市場・実需者の信頼を得ています。

このように、「飛騨黄金」を軸とした産地ブランド化戦略が評価されました。

昨年は未曾有の大震災に見舞われましたが、一年を経てようやく復興の兆しが見えてきました。一方、農業を取り巻く環境は大震災以前から厳しい状況にはありますが、花き生産においては甚だしい落ち込みがないのが救いと言えます。このような中、今年の審査でも生産額､収益を着実に伸ばしている経営体の推薦が多数あったことに心強く感じました。そのような経営体では、栽培技術の高度化により生産効率を高めるとともに、省力化や経費節減による生産コストの低減、施設等の有効利用による環境負荷の低減に努める一方、消費者ニーズに合う品目・品種の選択、あるいはオリジナル品種の育成、さらに新しい需要の開拓にも力を注いでおり、その努力には頭が下がる思いがしました。

受賞者の皆様には心からお祝いを申し上げますとともに、わが国の花き産業の発展のため、今後とも一層のご尽力を下さるようにお願いし、審査講評といたします。

平成２４年3月１９日
審査委員長
腰　岡　　政　二

第２１回花の国づくり共励会
花き技術・経営コンクール受賞者一覧表

【農林水産大臣賞】

◎**小　柳　誠　五**　（こやなぎ　せいご）
　小　柳　一　枝　（こなやぎ　かずえ）
　〒849-1323　佐賀県鹿島市大字音成乙３９４１

【農林水産省生産局長賞】

◎**有限会社五領ケ台ガーデン**　（ゆうげんかいしゃ　ごりょうがだいがーでん）
　（代表取締役　窪　田　敬　一）（だいひょうとりしまりやく　くぼた　けいいち）
　〒259-1219　神奈川県平塚市広川７７４

◎**稲　垣　長　太　郎**　（いながき　ちょうたろう）
　〒445-0000　愛知県西尾市西塩浜１３７

◎**有限会社金原園芸**　（ゆうげんかいしゃ　かなはらえんげい）
　（代表取締役　金　原　由　紀　男）（だいひょうとりしまりやく　かなはら　ゆきお）
　〒859-0312　長崎県諫早市西里町５０６

◎**坂　崎　改　輝**（さかざき　かいき）
　坂　崎　久　子（さかざき　ひさこ）
　〒869-0602　熊本県宇城市小川町中小野９６

【財団法人日本花普及センター会長賞】

◎**吉　澤　明　弘**　（よしざわ　あきひろ）
　〒334-0057　埼玉県川口市安行原６７３

◎**牛　島　博　文**　（うしじま　ひろふみ）
　〒830-1212　福岡県三井郡大刀洗町甲条１０４８

◎**ＪＡひだ花卉出荷組合菊部会**　（じぇいえいひだかきしゅっかくみあいきくぶかい）
　（代表者　野　谷　智　樹　）（だいひょうしゃ　のたに　ともき）
　〒506-0000　岐阜県高山市冬頭町１５－１

【農林水産大臣賞】

小柳誠五　小柳一枝　（佐賀県）
切り花（ユリ）

小柳花園の経営スタッフ
（小柳貴子　小柳公彦　　小柳一枝　小柳誠五）

植え付け前のユリ球根

採花直後のユリ切り花

小柳花園のロゴマーク

小柳誠五氏は、会社勤めをしていたが、長男の就農をきっかけに４４歳で就農し現在２０年目となる。初めは、施設花き３０ａ、露地みかん２００ａ、ブドウ１５ａ、水稲５ａからスタートした。当初は、トルコギキョウ、ストック、スターチス、オリエンタルユリ等を栽培していたが、オリエンタルユリは、種苗費や暖房経費が高い反面、植え付け後の

経費と労働力が少なくてすむという点に着目し、平成１１年にオリエンタルユリの栽培に経営を一本化した。

平成１７年に台風被害にあい２０ａのハウスが倒壊したが、３年後に建て直し、現在９７ａまで規模拡大している。就農当時から妻一枝氏、長男公彦氏の３人４脚で一緒に経営に携わってきた。また、長男の結婚後は、長男の妻貴子氏とともに４人５脚・家族全員で作業を分担して行なっている。なお、家族経営協定は、平成１０年３月（以後、一部改訂）に結んでいる。

ユリ栽培に当たっては、暖地の特性を活かして秋から初夏までの出荷を行ない、堅くてボリュームがあり、草姿のバランスのよいユリを作るように心がけており、夏場の高温時は、品質が落ちるため土作りと土壌消毒期間にしている。７～１５日おきに植え付けを行い、ハウスの回転数を最大限上げ、単位当たり収量を上げるようにしている。ハウスは、干拓地、平坦部、山間部の３か所に分散しており、ハウスに応じた栽培管理を細やかに行なっている。

ユリの出荷は、東京の大田市場に全体出荷量の６０％、九州の市場に４０％で、年間２５万本である。出荷に当たっては、段ボールだけでなく、ユリのラッピングにも生産地名、生産者名と絵柄を入れ、花屋にアピールするとともに最後まで責任を持って販売するようにしている。大田市場における日持ち比較試験の結果でも一番日持ちがよく、蕾も最後まで開花し、葉の黄化もなく評価の高い結果を得ているほか、平成２２年度並びに平成２３年度佐賀県花き園芸共進会においては、連続して最優秀賞を受賞している。

家族の作業分担は、誠五氏は、営業や市場との連絡、経営管理、収穫・選別・出荷を担当し、一枝氏は、栽培管理と収穫・選別・出荷、雇用管理、公彦氏は、作付け計画と栽培管理、貴子氏は、かん水・選別・出荷を担当している。雇用は忙しい時のみでほとんどが家族労力だけでまかなっており、残業はほぼゼロになっているほか、休日を設けているので家族との時間もきちんと取ることができている。しかも、栽培管理では、基本管理を徹底し、病害虫を出さないで高品質のものを栽培することにより、農薬散布の回数が減り、１００％出荷なので残骸の撤去作業もなく、選別では病害虫のチェックが無いなど多くの時間短縮と労力・コスト軽減につながっている。

経営面では、市場や小売店におけるユリの流行等の動向を見極めながら、高単価の品種、病害虫に強い品種、作業性（選別・梱包）のよい品種を選択するとともに、インターネットを駆使して資機材の情報収集に努め、消費者ニーズにすばやく対応し、市場ではトップクラスの単価を維持している。

更に技術面では、近年の高温対策として遮光ネットを使用したり、苗の定植時期を遅らせるなど気象の変化に適切に対応している。加えて、近年高騰している重油使用量の削減を図るため、三重カーテン、サイドカーテン、放熱フインを導入し３割の削減を達成している。

また、共進会での最優秀賞受賞が示すように県のユリ栽培において重要な役割を担っているとともに、佐賀県花づくり推進協議会幹事を務めるなど県内花き生産者全体のリーダー的存在である。

【農林水産省生産局長賞】

有限会社五領ケ台ガーデン（代表取締役　窪田敬一）　（神奈川県）
鉢物（シクラメン、ニューギニアインパチェンス、ナスタチューム、
プリムラジュリアン、パンジー、クジャクアスター等）

窪田敬一氏は、父親がカーネーションの切り花栽培を行なっていたので、長男である自分が農家を継ぐことを決心し、高校卒業後は神奈川県園芸試験場で１年間の研修を受け、４４年に就農し父の施設の一角を借りてシクラメン栽培を始め、昭和４６年には１５０坪のガラス室を建設した。昭和４９年からは、オランダの経営や栽培に興味を持ち、２年間オランダの種苗会社で働き、そこでエラチオールベゴニアと出会い栽培方法や繁殖技術を習得した。

帰国後は、日本ではあまり栽培されていなかったエラチオールベゴニア生産を本格的に取り組み、昭和５７年から苗の需要が高いことに気付き苗生産に栽培を切り替えた。その後、この技術を活かして昭和６３年からニューギニアインパチェンスの苗生産を行なった。平成２年に法人化して有限会社を設立、平成５年には、それまでのハウスでは栽培環境が適さないので、現在の場所に大規模温室を建設し、通路、かん水、防除、環境制御等で徹底して労力節減を目的とした構造と設備内容にした。ニューギニアインパチェンスの苗生産は、販売単価が下降線になり国内生産によるプラグ苗の需要に陰りが出てきたため生産を終了し、平成７年からペチュニア、カリブラコアの栄養繁殖とポット苗生産を受注した。平成９年にガーデンシクラメンの栽培を始めるとともにミニシクラメンの交配を始めた。平成１３年には、山梨県忍野村に農場を作り夏場の生産を始め、プリムラ類、ビオラ、シクラメンの早期出荷を目指した。平成１５年には原種のユリの組織培養を始め、平成１７年から栽培を始め、平成１９年にはネメシアの交配を始めている。なお、平成１７年、１８年に取引先の撤退等により打撃を受けたが、オリジナル商品の開発と販売の選択肢を多く持つことなどの結論を導き引き出した。取引先が撤退したのち、長年の努力を認めて取引を開始する会社が現われ、栽培技術、事務処理、配送手配、育種技術が評価され取引は増加している。

現在、県内の鉢物、苗物生産の規模としては、１、２を争う規模となっており、経営は計画性と展望を持ち、労働力軽減に寄与する自動かん水システム（プールベンチ）や土詰め機等の整備、養生庫や接木ロボットの整備、並びに環境保全にも関心は高く、エネルギーやCO_2の削減、農薬、施肥量の削減にも工夫や配慮が見られる。地域での信望も厚く、県花き連の鉢物専門委員長を努めたこともあり、また、神奈川県の農業経営士として地域農業の振興に寄与している。平成１７年には、全国園芸鉢物研究大会において功労者表彰を受けている。

【農林水産省生産局長賞】

稲垣長太郎　（愛知県）
切り花（カーネーション）

稲垣長太郎氏は、就農前の昭和４１年から２年間、地域のカーネーション農家で研修を受け、昭和４３年にカーネーション栽培を開始した。稲垣氏の花き経営の特色は、カーネーションで独自の品種を持つことはとても重要なことだと考え、愛知県ではカーネーションの種苗登録を最初に行なうとともに、以後、交配による育種を開始し、現在までに２７品種の登録品種を育成していることである。育種に当たっては、①作りやすさ、②日持ちの良さ、③市場性等を兼ね備えた品種になることを目指しており、優れた品種を選び出す目が確かなことは、その後、登録した品種が全国で栽培されていることからも明らかである。また、育成した種苗をウイルスフリーにするため、昭和５９年に無病苗共同育苗施設を設置し、昭和６０年以降２０年間ウイルスフリー苗の生産を行なった。育成品種の中で、「アルペンローズ」は、明紅色の花色が特徴で大ヒットし、その後、キャンドルシリーズが人気品種となり、特に、「ライトクリームキャンドル」は、日持ちする品種として知られ人気がある。このほかにも展覧会で上位入賞する常連の品種があり、北海道から九州まで全国各地の生産者に栽培されている。このようにオリジナル品種を持つことによりパテント料が削減でき、苗の生産コストを大幅に引下げている。

出荷は、個人選花共同輸送方式の西尾幡豆花弁出荷組合を通して行なっており、出荷箱には、「稲長園芸のカーネーション」と大きく印刷して、一目で稲垣氏のブランドであることが分かるように工夫されている。栽培管理に当たっては、収穫用台車を自作して利用したり、かん水作業はすべて自動かん水装置を導入したり、カーネーションが倒れないように支える方策としてフラワーネットをいち早く導入するなど品質向上と作業時間削減に役立てている。環境保全、省エネルギーの取り組みとしては、循環扇を全施設に導入し冬季の重油使用量の節減と夏季の昇温防止に利用している。また、害虫防除にフェロモントラップや黄色防蛾灯の設置を行なっているが、平成２３年から青色蛍光灯による集蛾灯の試行等も行なっている。

平成２０年には、家族経営協定を結び、経営全体の主担当を稲垣氏が、副担当を後継者孝太郎氏が行い、経理や労務管理を妻美保子氏が行なうことにしており、これにより家族の協力体制が明確になっている。

稲垣氏は、昭和５８年から４年間県花き連カーネーション部会育種クラブの初代会長として活躍するとともに、県農業総合試験場と共同して育種に取り組み、これまで５品種の登録を行なった。なお、地元花き連、県花き連並びに日本花き生産協会のカーネーション部会の役職を務めカーネーションの生産技術の普及、消費拡大などのＰＲのため全国的に活動している。また、地域の農業経営士会でリーダーシップをとり、毎年１月に「食と農のフォーラム西尾」を開催し、農業への理解促進や地産地消のＰＲ等に努めている。自らの後継者２名が就農しているが、更に研修生等を受け入れて地域の後継者育成にも長年関わり続けている。

【農林水産省生産局長賞】

有限会社金原園芸（代表取締役　金原由紀男）（長崎県）
切り花（キク）

金原由紀男氏は、両親がキク苗の生産販売を行いながら冬春のキク切り花生産を行なっていたが、昭和５８年の就農を機会に安定的に周年出荷できる経営を目指して、ビニールハウスの増設、建替えを行なった。更に、昭和６２年には、台風に影響されない周年栽培を実践するため耐候性のある鉄骨ハウスを導入するとともに、省力化設備を備え、熱効率もよいため年間３作の実現を目指して栽培に取組んだ。

平成１０年には、父からの経営移譲を受け、更なる大規模経営を行なうため有限会社を設立した。会社では、由紀男氏が生産管理を主体に行い、経理や雇用管理を妻和美氏が担当している。平成１２年～１３年にかけて安定的に周年出荷を行うため、シェード設備等を装備した鉄骨ハウスを増設し、経営規模を１００ａとしている。

栽培に当たっては、土作りが基本であるので、地域の畜産農家のもみがら堆肥や土壌改良剤（ピート）を用いて２年をかけて全施設の土壌改良を行っている。苗作りの技術は親の代からのもので、その育苗技術によって高品質の揃った苗を使い、定植時から均一な生育をさせている。この結果、単位当たり収量は、県内トップクラスの栽培を実践している。

労働軽減の工夫としては、積極的に品種情報を収集し、特に夏場の芽摘み作業が削減できる芽なし品種等省力化品種の導入をしている。雇用の面では、すべて地元雇用とし、地域内での雇用創出にも貢献している。

環境保全や省エネルギーについては、重油高騰対策として県内でもいち早くヒートポンプを導入し、導入前からすると約２割の経費削減となっており、また、低温開花性品種を導入し設定温度を下げて燃料費を削減し、これらによりCO_2の削減にもつながっている。また、防虫ネット展張のみならずタイベックシート敷設により害虫侵入対策を実施し、従来より３割程度防除回数の低減が可能となっている。

由紀男氏は、企業的な花き経営のモデルとしてだけでなく、地域の大規模基盤整備事業の推進、市認定農業者協議会の運営、遊休農地の解消に向けての活動で、また、和美氏は、市生活研究グループの運営、郷土料理講座の開催、高齢化により廃れつつあった地域の伝統技術（片木まんじゅう）・伝統行事の伝承活動、市の「ふるさと自慢市」等に参画し活動を盛り上げている。

【農林水産省生産局長賞】

坂崎改輝　坂崎久子　（熊本県）
切り花（シュッコンカスミソウ）

坂崎改輝氏は、平成元年に花き生産を開始した。当初は、カーネーションとスターチス栽培に取り組んでいたが、スターチスは、種苗及び燃料コストがかかり、カーネーションは、手間がかかるため規模拡大が困難と判断し、シュッコンカスミソウを導入した。平成８年に連棟ハウス建設により本格的にシュッコンカスミソウ栽培に取り組み、翌年には電照施設を導入して継続出荷体系作りを始めた。現在、水田２７５ａ、畑２０ａ、耕地面積２９５ａの中で、施設面積８５００㎡でシュッコンカスミソウのほか一部カーネーションとスターチスを、露地ではユーカリ、コデマリ、ヒバ３０ａを栽培している。

なお、平成２１年から、改輝氏、妻久子氏、長男一輝氏、長男の妻智美氏は、相互に能力に応じて、役割分担を行うこととし、家族経営協定を結んで経営管理に当たっている。

シュッコンカスミソウの栽培に当たっては、新品種の導入をいち早く行い、土壌にあった品種の検討を行なってきた。特に、水田土壌であるためＢＦ栽培は難しく間のびしやすかったため、現在は、アルタイル系品種に絞って栽培している。アルタイル系は、ＢＦより養水分を必要とするので、水田土壌でも作りや易く、また、堆肥を毎年投入し地力向上を図っているので、堅く締まった花の生産が可能となっている。定植を１週間づつずらし、時期に合わせたピンチ方法を組み合わせることで、出荷時期（概ね９月下旬から５月まで）にとぎれないように工夫している。出荷は、農協部会に加入し産地としての相対取引に貢献しており、所属するＪＡ熊本うき花倶楽部では、平成１５年より８年連続して共販高第１位の表彰を受けている。なお、シュッコンカスミソウ以外に自家生産の品目があり、これらの花きは、自宅の出荷作業所で花束にして、地元の道の駅等で販売している。労働改善に当たっては、全作業の約８割が収穫・出荷調整の時間であるので、作業が集中しないようにするため、品種、定植日、ピンチ方法を組み合わせ労力を分散させている。収穫は、圃場でＬ、Ｍ、Ｓ等の長さや着枝本数を考えながら行なうが、厳密に長さや着枝本数を揃えながら収穫することはせず、家族それぞれの判断に任せ、収穫後屋内での調整及び規格の振り分けを行なうことで収穫・調整作業が迅速に行なわれている。

環境保全や省エネルギーについては、定植前の土壌消毒は、代掻きを行なった後、太陽熱消毒で行なっている。また、肥料の一部として米ぬかを使用して除草効果を期待しており、電照を組み合わせ暖房効率を上げている。

地域では、地元の小川花き部会長を務めており、今後、水田を含め規模拡大し、地域雇用の機会を増やす取り組みを計画している。

【財団法人日本花普及センター会長賞】

吉澤明弘　（埼玉県）
鉢物（シクラメン、ハイビスカス、オステオスペルマム、ビオラ、クリサンセマム、ペチュニア等）

吉澤明弘氏は、平成１５年３月から２か月間シクラメン、ハイビスカス等の鉢物栽培に従事し、平成１５年６月から平成１７年６月まで２年間アメリカ・ワシントン州においてポインセチア、ゴールドクレスト等の鉢物経営の研修を受け、帰国後同時に就農し、シクラメン部門を中心とした鉢物栽培を親から受継ぎ本格的に栽培を開始した。平成１９年４月から平成２０年４月までは、栃木県日光市の農家で先進的なシクラメン栽培技術の研修を受け、この技術を持ち帰り自分の経営で実践している。

即ち､栃木県内の研修先から戻った平成２０年から主力の鉢花生産と販売部門を受継ぎ、都市化が進む川口市内で継続的に農業を営むため、市場出荷だけだなく地元にいる多くの消費者に目を向け、直売所や庭先で高品質な鉢花を直接販売することで直売比率を高め、経営の安定化を目指した。

基幹品目であるシクラメンは、は種から製品までの一貫栽培とし、施肥管理等研修先で学んだ技術を自家の栽培環境に合わせてアレンジし、品質の高い商品の生産に結び付け、市場からも高い評価を得ている。更に、品種特性を発揮できるような栽培管理について、生産者仲間と情報交換を行ないつつ日々技術研鑽に努め、作期の拡大、低コスト生産に結び付けている。

栽培環境と労働環境の部面では、ヒートポンプの導入、循環用ファンの設置並びにガラス温室の軒高を１メートル嵩上げすることにより夏季の高温障害を回避し、労働環境の改善及び高品質生産に繋げている。また、は種機や土入れ機の導入で作業の省力化、軽減化を図り、施設内の動線を整備し路面を舗装することで鉢物の移動等労働負荷の大きい作業の軽減が図られた。これらによりパート従業員の作業性が向上し、ゆとりを持った労働環境が整備されている。土壌消毒においては、早期に臭化メチル剤対策として蒸気消毒機を導入し、環境保全に貢献している。プラグトレイ、ビニール、プラスチック製品の廃材については、専門業者に回収してもらい確実なリサイクルや処分を行い、土及び鉢花の残渣等は数年かけて堆肥化し、再利用あるいは自家野菜生産に利用している。

吉澤氏の経営は、現在経営を担っている、あるいは今後就農を考えている青年に対する影響は大きく、学ぶべき多くの要素を含んだ経営である。

【財団法人日本花普及センター会長賞】

牛島博文　（福岡県）
切り花（ガーベラ）

牛島博文氏は、２０歳で就農した当時両親とともに養鶏を行なっていた。養鶏は、飼料を輸入に頼らざるをえないため、常に飼料の海外相場に経営が左右された。そこで、そのような農業経営から脱却することを望み、養鶏とは異なる新たな方向性を模索し、地域で生産が盛んであったリーフレタスやホウレンソウなど葉菜類の露地栽培を開始した。その後、安定した経営を目指し２５歳の時にハウスを建て、イチゴ専作経営へと転換を行なった。イチゴは５０ａまで規模拡大を行なったものの、開始から５年後に過労により体調を崩し、イチゴの生産が困難となった。そこで、当時需要が高かったソリダスターとリーフレタスの複合経営へと転換した。

平成７年、より安定し収益の確保が可能と考えられる品目としてガーベラを導入し、徐々にその規模を拡大して現在のガーベラ専作経営に至っている。

ガーベラの栽培に当たっては、多湿に弱い植物であることから排水対策を徹底して株枯れ防止を行なうとともに、安定した採花量を確保するため常に品種や季節に応じた摘葉作業に気を配っている。また、ガーベラは、ハモグリバエやハダニ類、コナジラミ類など微小な害虫が多く発生する品目であり、防除回数が多くなるので、トラップの設置による発生状況の把握、ＵＶカットフイルムを利用して侵入抑制等徹底した病害虫管理を行なっている。現在生産している品種は４０品種とバラエティーに富んでいるが、品種の選定に当たっては、オランダの種苗会社を招き情報交換を行い、牛島氏が中心となって栽培試験を行うとともに、その結果について研究会で共有している。

販売面では、需要者である大手花店やホテル業者などと情報交換を行ない、直にニーズを把握することでガーベラの品種の構成や選定に活かし、安定供給に努め顧客との信頼関係を構築している。牛島氏と妻民子氏とは、家族経営協定を結び家族内での役割分担で行なっている。民子氏は、テレビ出演して大輪ガーベラのＰＲを行なうなどマスコミを有効に活用し、一般消費者へ向けたアピールなども実施している。

牛島氏は、現在ＪＡみいガーベラ研究会の会長であり、常にリーダーとして技術の向上、品種の選択、販売促進等の面で牽引役を担っており、また、ＪＡみい切花部会等の役員を長年努めるとともに、ＪＡの理事をしており、地域の農業活性化のために尽力している。

【財団法人日本花普及センター会長賞】

ＪＡひだ花卉出荷組合菊部会　（代表者　野谷智樹）（岐阜県）
切り花（キク）

ＪＡひだ花卉出荷組合菊部会のある飛騨地域は、全面積の８９％が山林であり、耕地面積は全体の２％弱で約７，８７０ｈａである。耕地は海抜２００～１３００ｍの間に点在し、夏期冷涼な気候を活かした農業生産が行なわれている。主な品目としては、水稲、肉用牛、酪農、夏ほうれんそう、夏秋トマト、モモ、リンゴ、花きである。

飛騨地域の花き生産は､昭和 40 年頃にキク栽培から始まった｡昭和４０年代後半からは、飛騨地域で開発されたコストの安い簡易雨よけパイプハウスでの栽培が普及し、比較的雨の多い飛騨地域でも生産・品質が安定した結果、栽培面積・生産者数ともに増加した。平成３年には、キクの栽培面積は１０．５ｈａ、販売金額２億４千万円となった。しかしその後、単価の乱高下が激しく、経営が不安定となったことや高単価で安定しているトルコギキョウ等洋花生産が中心となったことなどで、キク栽培の生産者数、栽培面積は急激に減少し、平成 14 年には、栽培面積４ｈａ、販売金額４，２００万円にまで減少した。近年は、洋花の単価も安価となり、産地全体の販売額や生産者数も減少している。しかし、キクの生産者数、販売金額は、輪ギク「飛騨黄金」を軸として増加に転じ、産地が再び活気を取戻している。菊部会員は、現在４８名で、キクの栽培面積（輪ギク、小菊、スプレーマム等）は、施設と露地を合わせて５９８ａ、生産額は７，６７０万円となって、面積、生産量ともに年々伸ばしている。

「飛騨黄金」は、「信濃黄金」から盆時期に開花し、開花が緩やかで優れた日持ち性を有する系統を選抜して育成した品種である。

当菊部会では、他産地と比較した有利な点と不利な点を徹底的に洗い出し、小規模産地ならではの特色を生かした黄色輪ギク「飛騨黄金」を盆需要の仏花をターゲットとし、集中的に出荷する戦略を立て、平成２０年から“めざせ「飛騨黄金」１００万本”をキャッチフレーズに、確実に需要期に出荷できる栽培体系の確立とマニュアル化、ＪＡ広報、バスツアーを活用して生産者の掘り起こしを行い、５年間で出荷本数を４９万本→６４万本と着実に増加させており、目標に向って着実に前進している。

戦略の立案に当たっては、産地の理論ではなく、市場・実需者の理論を最優先し、量販等の仕入れに対応した出荷時期の前進化、値ごろ感のある出荷規格、予約相対取引価格の見直しなど積極的に取り組み、市場の信頼を得ている。

こうした「飛騨黄金」で構築した市場との信頼関係を基に、洋キク「飛騨マム」の生産もスタートさせ、商品開発にも積極的に取組んでいる。

（参考資料1）

花の国づくり共励会　花き技術・経営コンクール受賞者一覧

平成24年3月19日

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
21回(23年度)	農林水産大臣賞	佐賀	小柳誠五　小柳一枝	ユリ(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	神奈川	有限会社五領ケ台ガーデン (代表取締役　窪田敬一)	シクラメン、ニューギニアインパチェンス、ナスタチューム、プリムラジュリアン等(鉢物)	
21回(23年度)	生産局長賞	愛知	稲垣長太郎	カーネーション(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	長崎	有限会社金原園芸 (代表取締役　金原由紀男)	キク(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	熊本	坂崎改輝　坂崎久子	シュッコンカスミソウ(切り花)	
21回(23年度)	(財)日本花普及センター会長賞	埼玉	吉澤明弘	シクラメン、ハイビスカス、オステオスペルマム、ビオラ、クリサンセマム等(鉢物)	
21回(23年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	牛島博文	ガーベラ(切り花)	
21回(23年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	JAひだ花卉出荷組合菊部会 (代表者　野谷智樹)	キク(切り花)	
20回(22年度)	農林水産大臣賞	埼玉	有限会社横川花園　代表取締役横川保次	ユリ、チューリップ、ギボウシ等(鉢物)	
20回(22年度)	生産局長賞	岐阜	河合　　修	アルストロメリア(切り花)	
20回(22年度)	生産局長賞	福岡	安田　克徳 安田　節子	サカキ、花桃、ニュウサイラン、しめ縄、門松、松竹梅等(花木・枝物類)	
20回(22年度)	生産局長賞	長崎	山口　政則 山口　和代	カーネーション(切り花)	
20回(22年度)	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	伊藤　正規	シンビジウム、コチョウラン、ミルトニア(鉢物洋らん類)	
19回(21年度)	農林水産大臣賞	埼玉	塩原　茂夫	アジサイ、ポインセチア(鉢物)	
19回(21年度)	農林水産大臣賞	大分	有限会社お花屋さんぶんご清川 代表取締役社長　小久保恭一	リンギク(切り花)	第49回農林水産祭 天皇杯受賞
19回(21年度)	生産局長賞	宮城	石巻農業協同組合 花卉部会ガーベラ班	ガーベラ(切り花)	
19回(21年度)	生産局長賞	愛知	櫛田 倉司	リンギク(切り花)	
19回(21年度)	生産局長賞	大阪	梶本 定敏	ユリ、アイリス等(球根切り花)	
18回(20年度)	農林水産大臣賞	愛知	小松　英雄	アンスリーム(鉢物)	
18回(20年度)	農林水産大臣賞	福岡	浜野　重登 浜野　明美	バラ(切り花)	
18回(20年度)	生産局長賞	埼玉	安藤　　貢	アガパンサス等(苗物)	
18回(20年度)	生産局長賞	岐阜	有限会社サンコフ	セントポーリア等(鉢物)	
18回(20年度)	生産局長賞	大阪	稲治　義彦	シャクヤク等(露地花き)	
18回(20年度)	生産局長賞	長崎	柴田　定實 柴田　富子	キク(切り花)	
18回(20年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	石井　克明	バラ(切り花)	
17回(19年度)	農林水産大臣賞	埼玉	黒臼　秀之	コチョウラン(鉢物)	
17回(19年度)	農林水産大臣賞	岐阜	吉田　正博	ガーベラ等(鉢物)	
17回(19年度)	生産局長賞	千葉	平野　圭祐	アンスリウム(切り花)	
17回(19年度)	生産局長賞	神奈川	加藤　　悟	シンピジウム(鉢物)	
17回(19年度)	生産局長賞	愛知	平野　和美 平野　照美	ポインセチア等(鉢物)	
17回(19年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	石橋　正基	カーネーション(切り花)	
16回(18年度)	農林水産大臣賞	千葉	丸朝園芸農業協同組合 花卉部 (部長)飯高　重雄	サンダーソニア等(切り花)	
16回(18年度)	農林水産大臣賞	福岡	空閑　善実 空閑　桂子	パンジー等(苗物)	
16回(18年度)	生産局長賞	鹿児島	サンライズグリーンヒル観葉生産組合 (代表者)福留　健一	オーガスタ等(観葉植物)	
16回(18年度)	生産局長賞	愛知	伊藤　勝久	シクラメン等(鉢物)	
16回(18年度)	生産局長賞	長崎	立石　俊一	バラ(切り花)	
16回(18年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	澤瀬　一男 澤瀬ロシタ	コギク等(切り花)	
16回(18年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	大　阪	パンジー等(苗物)	
16回(18年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	佐　賀	キク(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
15回(17年度)	農林水産大臣賞	埼玉	田島　　嶽	ガーデンシクラメン(苗物)	
15回(17年度)	生産局長賞	群馬	小倉　文雄	シクラメン等(鉢物)	
15回(17年度)	生産局長賞	愛知	内藤　完次	バラ(切り花)	
15回(17年度)	生産局長賞	長崎	JA壱岐市花き部会 (代表者)下條利一	コギク等(切り花)	
15回(17年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	高木　兼雄	スパティヒィラム(鉢物)	
15回(17年度)	(財)日本花普及センター会長賞	沖縄	玉城　昌伸	キク(切り花)	
15回(17年度)	(財)日本花普及センター会長賞	沖縄	蔵下　良彦	キク(切り花)	
14回(16年度)	農林水産大臣賞	東京	八丈島農業振興青年研究会 鉢物部会 (代表者)大沢猛邦	フェニックス等(鉢物)	
14回(16年度)	農林水産大臣賞	岐阜	株式会社西垣園芸 西垣　正俊	オステオスペルマム(苗物)	
14回(16年度)	生産局長賞	宮城	株式会社ハニーローズなんごう (代表者)楢山 恒雄	バラ(切り花)	
14回(16年度)	生産局長賞	愛知	株式会社H&Lプランテーション 鵜飼　敏之 鵜飼　　浩	パンジー等(苗物)	
14回(16年度)	生産局長賞	福岡	高橋　三千年 高橋　節子	バラ(切り花)	
14回(16年度)	生産局長賞	鹿児島	小村　幸一	パキラ等(観葉植物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	神藤　正和	ハボタン等(苗物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大阪	谷嵜　隆雄	ハナモモ等(切り枝花木)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	尾崎　進一郎	シンピジウム(鉢物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	松永　宏隆	ユリ(切り花)	
14回(16年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	JA東長崎菊部会 (代表者)松尾 修一	キク(切り花)	
13回(15年度)	農林水産大臣賞	徳島	有限会社岸本農園 岸本　　昇 岸本ときこ	ハイビスカス等(鉢物)	
13回(15年度)	農林水産大臣賞	鹿児島	有限会社南原農園 南原　武博	ジャスミン等(切り花)	
13回(15年度)	生産局長賞	岐阜	有限会社白木園芸 白木　和彦 白木ふさ子	レッドロビン等(洋蘭・観葉植物)	
13回(15年度)	生産局長賞	佐賀	宮崎　憲治	スイトピー等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	JAひだ花卉出荷組合 益田支部 (代表者)中川　剛	キク等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	山田　則明	カーネーション等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	緒方　久幸	ガーベラ(切り花)く	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	西海菊出荷組合 (代表者)川内 通良	キク(切り花)	
12回(14年度)	農林水産大臣賞	愛知	石井　義明	アルストロメリア(切り花)	第42回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
12回(14年度)	生産局長賞	埼玉	成澤　勝司	マリーゴールド(苗物)	
12回(14年度)	生産局長賞	鹿児島	柴嵜　喜好	アイビー等(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	石川　正樹 石川　結花	ユリ(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	川端　芳彦 川端　葉子	ユリ等(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	稲田　良弘	コチョウラン(鉢物)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	小西　幸彦	マツ(盆栽)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	徳永　健史	コチョウラン(切り花・鉢物)	
11回(13年度)	農林水産大臣賞	埼玉	小林　滋幸	カランコエ((鉢物)	
11回(13年度)	農林水産大臣賞	長崎	JA北高電照菊研究会 (代表者)大谷 虎次	キク(切り花)	
11回(13年度)	生産局長賞	埼玉	田中　　勲	シクラメン等(鉢物)	
11回(13年度)	生産局長賞	岐阜	河野　鉄博 河野　常子	ラナンキュラス等(切り花)	
11回(13年度)	生産局長賞	愛知	林　　富造 林　　房子	シンピジウム(鉢物)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
11回(13年度)	生産局長賞	佐賀	菖蒲　正行	トルコギキョウ等(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	中辻　栄治	キク(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	石田　律恵	レースフラワー等(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	阿部　雅志	シンピジウム(鉢物)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	森　　崇	バラ(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	高杢　義邦	ユリ等(切り花)	
10回(12年度)	農林水産大臣賞	岐阜	大西　　隆	ミニバラ(鉢物)	第40回農林水産祭 天皇杯受賞
10回(12年度)	農林水産大臣賞	鹿児島	沖永良部花き流通センター (代表者)泉　貞吉	テッポユリ等(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	群馬	林　　康夫	シクラメン等(鉢物)	
10回(12年度)	生産局長賞	香川	農事組合法人香花園 (代表者)保坂重雄	カーネーション(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	大分	有限会社メルヘンローズ (代表者)小畑和敏	バラ(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	沖縄	玉城　哲弘	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	谷藤　幸子	リンドウ等(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	山梨	農事組合法人 白根フラワーコーポラティブ	インパチェンス等(鉢物)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	伊奈　義就	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	宮脇　　孝	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	藤本　傳夫	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	中園　英治	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	江頭　富春	カーネーション等(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	鹿児島	富田　良成	バラ(切り花)	
9回(11年度)	農林水産大臣賞	埼　玉	奥富　良雄	チューリップ等(苗物)	
9回(11年度)	農林水産大臣賞	愛　知	角田　隆幸	ハボタン等(苗物)	第39回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
9回(11年度)	農産園芸局長賞	宮　城	宮城県南三陸農業協同組合 花き部会	キク(切り花)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	山　梨	渡辺　喜市	サンダーソニア等(切り花)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	滋　賀	小杉　長男	シクラメン等(鉢物)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	沖　縄	大城　清利	キク(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩　手	菅原　武男	リンドウ(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	栃　木	田代　正行	カーネーション(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	埼　玉	木村　　実	バラ(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長　野	中村　元夫	ディフィニウム等(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈　良	吉川　公彦	キク等(花苗)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳　島	朝海　常祐	キク(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福　岡	高尾　保徳	ゴールドクレスト等(花木)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長　崎	小嶺　敏博	コウチョウラン等(鉢物)	
8回(10年度)	農林水産大臣賞	岐　阜	間宮　敏昭	ハイビスカス等(鉢物)	
8回(10年度)	農林水産大臣賞	福　岡	井上　茂之	トルコギキョウ等(切り花)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	埼　玉	戸谷　武雄	シュッコンアスター(切り花)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	静　岡	服部　一夫	クルクマ等(鉢物)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	京　都	清水　幸雄	ケンガイキク(鉢物)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	長　崎	鹿山　雅勝	カーネーション等(切り花)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	新　潟	渡邉　和芳	ユリ(切り花)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	三　重	松尾　廣文	シクラメン等(鉢物)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈　良	吉本　利郎	バラ(切り花)	
7回(9年度)	農林水産大臣賞	宮　城	平間　久義	ハーブ等(苗物)	
7回(9年度)	農林水産大臣賞	静　岡	とぴあ浜松農業協同組合 PCガーベラ販売部会	ガーベラ(切り花)	第37回農林水産祭 天皇杯受賞
7回(9年度)	農産園芸局長賞	青　森	竹ノ原幸悦	カーネーション等(切り花)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	埼　玉	立石　勝義	ポインセチア等(鉢物)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	福　岡	南嶋精二朗	ベゴニア等(苗物)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	長　崎	本田　敏秀	カーネーション等(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐　阜	フローラぎふOKI	カランコエ(鉢物)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京　都	月本　雅治	バラ(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	兵　庫	中岡　邦康	カーネーション(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大　分	市川　一清	スイトピー等(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	沖　縄	渡久山　稔	キク(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
6回(8年度)	農林水産大臣賞	栃　木	菱沼　軍次	シクラメン等(鉢物)	
6回(8年度)	農林水産大臣賞	静　岡	大庭　孝史	パキラ等(観葉植物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	埼　玉	新　　博之	カランコエ等(鉢物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	京　都	寺内　一郎	パンジー等(苗物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	福　岡	大隈　博幸	バラ等(切り花)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	沖　縄	外間　勝義	キク等(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	宮　城	斉藤　達義	シクラメン等(鉢物)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	群　馬	小嶋　　宏	バラ(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐　阜	安保　幹太	シンピジウム等(鉢物)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈　良	堀田　泰規	プリムラ等(苗物)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	高　知	広岡　　稔	アイリス等(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	高　知	小池　龍善	キク等(切り花)	
5回(7年度)	農林水産大臣賞	岐阜	福田　　誠	セントポーリア等(苗物)	
5回(7年度)	農林水産大臣賞	福岡	波佐間　廣美	ディフェバキア等(観葉植物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	群馬	萩原　久雄	シクラメン等(鉢物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	埼玉	千野　純一	インパチェンス等(鉢物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	大分	飯田花き生産組合 (代表)時松　　謙	バラ等(切り花)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	沖縄	宮平　憲勇	キク(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	宮城	手島　　徹	シクラメン等(鉢物)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長野	金本　達夫	バラ(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	矢野　伸太郎	ストック(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	多田　　護	ベニカナメモチ(植木)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	水田　義雄	キク(切り花)	
4回(6年度)	農林水産大臣賞	宮城	渡辺　　俊	シクラメン等(鉢物)	
4回(6年度)	農林水産大臣賞	埼玉	金子　　正	カラジューム等(鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	群馬	中山　忠義	洋ラン(切り花・鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	福岡	和佐野　喜代太	コチョウラン等(鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	佐賀	中江　広城	キク(切り花)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	大分	志賀　智貴	ユリ(切り花)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	木村　勇一	プラグ苗等(苗物)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	林　　一郎	ポインセチア等(鉢物)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	明崎　勝治	ダリア等(切り花・球根生産)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	町田　一弘	スイトピー等(切り花)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	鹿児島	利田　正明	カーネーション等(切り花)	
3回(5年度)	農林水産大臣賞	茨城	鈴木　　隆	ホウズキ等(鉢物)	
3回(5年度)	農林水産大臣賞	沖縄	亀谷　英雄	キク等(切り花)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	秋田	三浦　康之	トルコギキョウ等(切り花)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	群馬	小内　敬一	アジサイ等(鉢物)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	埼玉	矢作　文夫	カトレア等(鉢物)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	高知	山崎　廣美	ユリ等(切り花)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	森島　衛樹	ハナショウブ等(切り花)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉川　喜一	シクラメン等(鉢物)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	沖野　高人	(花木)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	田代　恒夫	バラ等(切り花)	
2回(4年度)	農林水産大臣賞	栃木	渡辺　武雄	コチョウラン等(鉢物)	
2回(4年度)	農林水産大臣賞	静岡	渡辺　　偉	クレマチス等(苗物)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	岩手	畠山　正徳	リンドウ等(切り花)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	群馬	大沢　憲一	バラ(切り花)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	東京	浅沼　一治	フェニックス等(鉢物)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	福岡	和佐野勝次	リンドウ等(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	埼玉	町田　静吾	バラ(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長野	竹内　栄一	バラ(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	今村　喜和	キク等(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉村　隆明	インパチェンス等(鉢物)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大分	藤原　博文	キク(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
1回(3年度)	農林水産大臣賞	岩手	猿子　恵久	アルストロメリア等(切り花)	
1回(3年度)	農林水産大臣賞	埼玉	本多　忠夫	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	栃木	菱沼　軍次	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	群馬	阪本　正次	アジサイ等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	長野	筒井　基博	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	岐阜	河本　弘元	バラ(切り花)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	静岡	岩倉　廣治	(観葉植物)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	完岡　義清	カキツバタ(切り花)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	中本　博文	ハボタン等(苗物)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大分	時松　　謙	バラ等(切り花)	

（参考資料２）

第２１回花の国づくり共励会
花き技術・経営コンクール実施要領

１．目　的

我が国の園芸の将来を担い、かつ国民生活に潤いと安らぎをもたらすものとして重要な役割を担っている花きについて、生産分野の技術・経営の向上・発展を図ることを目的とする。

２．開催団体

（１）主　催　財団法人日本花普及センター
（２）後　援　農林水産省
（３）協　賛　社団法人日本花き生産協会
　　社団法人日本花き卸売市場協会
　　社団法人全国農業改良普及支援協会

３．出品資格

露地花きにあっては栽培面積が１ha 以上、施設花きにあっては栽培面積が５０ａ以上の花き生産を主とする農業者等であって、技術・経営に優れ、地域社会に支持と共感を得ているものとする。

４．出品方法

出品は、自薦、他薦を問わず、「花の国づくり共励会－花き技術・経営コンクール応募用紙（別添１、２）」に所定の事項を書き込み、それに基づく経営及び活動の記録等の必要な資料を添付して提出する。

５．審査方法

（１）予備審査

財団法人日本花普及センターは、自薦、他薦を問わず応募用紙が提出された出品財について、書類審査等により本審査の対象となる出品財を選考する。

（２）本審査

別紙２の審査委員は、別紙１の審査基準に基づき書類審査、必要に応じて現地調査を実施して、公正な審査を行う。

６．表　彰

（１）特に優秀と認められた出品財に対して農林水産大臣賞（２点）、優秀と認められた出品財に対して生産局長賞（４点）、財団法人日本花普及センター会長賞（数点）を

それぞれ授与する。

（2）農林水産大臣賞出品財は、国の定める「農林水産祭表彰要領」に基づき天皇杯等の選賞資格を有する。

（3）次に掲げる基準のいずれかに該当し、かつ経営主の配偶者の貢献度が高いと認められる場合にあっては、夫婦連名で表彰することができる。

但し、農林水産祭参加行事の農林水産大臣賞並びに生産局長賞に限る。

① 家族経営協定を締結していること。

② 推薦書等において経営主の配偶者の作業分担、従事日数等が概ね５割に達していると確認できること。

③ 農業改良普及センターなどの現場指導組織による意見書が添付されていること

なお、推薦の段階で夫婦連名であるものについては、(財)日本花普及センター会長賞についてもこれに準ずる。

7．事　務　局

標記コンクールを実施するため、事務局を（財）日本花普及センター内に設置する。

8．開催日程

（1）出品募集期間　　平成２３年８月～１１月

（2）予備審査　　平成２４年１２月

（3）本審査　　平成２４年１月下旬

（4）現地調査　　平成２４年２月上旬～２月中旬

（5）表彰式　　平成２４年３月中旬

（別紙１）

花き技術・経営コンクール審査基準

1　立地条件を活かした合理的、安定的な経営であること
2　経営に計画性と展望をもち、近代化、拡大化の方向をたどっていること
3　消費動向を的確にとらえ、消費者ニーズに応える経営を行っていること
4　栽培技術は、科学的基礎に基づき、その水準が高く優れ、改善意欲が盛んなこと
5　生産基盤の整備、資本整備の投資がかなり行われ、その利用効率が高いこと
6　土地利用及び労働力利用が合理的であること
7　生産性が高く所得が水準以上と認められること
8　労働軽減等により、ゆとりある農業を実現していること
9　環境保全に対する工夫や配慮が見られること
10　国際化対応を考慮した経営がなされていること

（別紙２）

第２１回(平２３年度) 花き技術・経営コンクール審査員名簿

氏　名	所　属　・　役　職
腰岡政二	日本大学生物資源科学部　教授
土井元章	京都大学大学院　教授
河野恵伸	(独)農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター　食農連携プロジェクト リーダー
長村智司	大阪テクノホルティ園芸専門学校　校長
田島鉄弥	(社)日本花き生産協会　会長
長岡　求	株式会社フラワーオークションジャパン　取締役経営企画室長

第２１回花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール受賞者の業績概要

平成２４年３月発行

編集・発行　財団法人日本花普及センター
〒103-0004　東京都中央区東日本橋３－６－１７　山一ビル４階
TEL：０３－３６６４－８７３９　　FAX：０３－３６６４－８７４３
e-mail：jfpc.@jfpc.or.jp　　URL：http://www.jfpc.or.jp

いいこと
あった日、
花を買う。

花っていいよね。キャンペーン